

# 熊谷市自主防災組織の取組

## ～ 活動事例集 ～



## はじめに

近年、我が国では地震や台風等による大規模な災害がたびたび発生しています。

本市でも、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、震度5強を記録し、住家等に被害が発生しました。

また、昨年9月16日未明に発生した台風18号に伴う竜巻は、妻沼地区、熊谷西部地区、江南地区に甚大な被害をもたらし、昭和41年9月の台風26号以来、47年ぶりに災害救助法が適用されるとともに、被災者生活再建支援法も初めての適用となりました。

竜巻発生直後、市では直ちに災害対策本部を設置し、迅速な応急対策を行うとともに、現在は、被災された方々の生活の安定に向け、各種支援対策を実施しているところであります。

大規模な災害が発生した場合、その被害を防ぐには本市（自治体）が行う対策「公助」だけでは限界があります。住民自身が自らの努力で守る「自助」とともに、地域や近隣の人たちが互いに協力しながら組織的に防災活動に取り組む「共助」が重要となります。

本市の自主防災組織（組織率）は、東日本大震災直後の平成23年4月1日の43.3%から平成26年3月1日には66.3%へと、ここ3年弱で急激に増加し、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識や取組が広がっています。

しかしながら、自主防災組織の運営や活動において、高齢化や昼間の活動要員の不足、活動に対する住民意識の不足などの課題も指摘されているところでもあります。

こうした課題を解消し、大規模な災害に備えるためにも、地域の様々な団体と連携し、地域のすべての力を結集した取組を進め、地域における防災力を一層向上していく必要があります。

また、災害が常に起こり得ることを想定して、家庭や職場、地域で日頃から備えることも大切であります。

そこで、今回、自主防災組織の活動の参考にしていただくため、自主防災組織の活動事例のうち特徴的な6事例について取りまとめました。

この事例集を、自主防災組織のさらなる活動活性化の一助として活用していただくことを期待します。

平成26年3月

熊谷市長 富岡 清

## 目 次

1	活動の概要	1
2	自主防災組織活動事例集（活動の詳細）	
(1)	卯月花自治会自主防災会	3
(2)	成田山自治会自主防災会	4
(3)	三本自主防災会	5
(4)	大栄自主防災会	6
(5)	久下熊久自主防災会	7
(6)	籠原自治会自主防災会	8
3	訓練実施までの流れ	9
4	補助金申請の手続き	9
5	相談・お問合せ先	9
6	自主防災組織の活動予定	9
7	参考【市内の防災関係機関一覧】	10

## 1 活動の概要

自主防災組織名	設立 年度	特徴的な取組の概要	世帯数
卯月花自治会自主防災会	H 2 5	結成年度に、早速訓練を実施。 体育祭と併せて訓練を実施している。 また、体育祭で恒例の“運だめし”により、参加者を確保している。	130 世帯
成田山自治会自主防災会	H 2 0	年 2 回、防災勉強会（室内）と実地訓練（屋外）を実施。 地域の清掃日と併せて訓練を実施することで、住民の負担が増えないよう工夫をしている。	44 世帯
三本自主防災会	H 2 0	ゴミゼロの日と併せて訓練を実施することで、参加者を確保している。 毎年、世帯構成員調査を行い、安否確認に役立てている。	169 世帯
大栄自主防災会	H 1 6	平成 2 2 年の訓練を最後に活動していなかったが、近年の災害を経験し防災の重要性を再認識。 活動再開の第一歩として、防災講演を実施し、地域の防災意識高揚を図っている。	436 世帯
久下熊久自主防災会	H 2 2	地域の行事『熊 <sup>ゆうきゆう</sup> Q グルメ大会』と併せて訓練を実施することで、幅広い年代の方が参加。 訓練の最後に防災に関するアンケートを実施し、一人一人の防災意識を高める。	496 世帯
籠原自治会自主防災会	H 1 6	毎年、地域のさまざまな組織・機関が参加して防災訓練を実施している。特に、災害時要援護者への支援に力を入れており、地域の特別養護老人ホームも訓練に参加している。	782 世帯

# 活動の詳細

# 「まず、やってみる」

～ 体育祭の半分を防災訓練に ～

団体名 : 卯月花自治会自主防災会

結成 : 平成25年8月1日

世帯 : 130世帯



## ●取組内容

- ・ 結成後、同年中に初めての自主防災訓練を実施した。
- ・ 自治会の行事として、毎年お祭りと体育祭を行っている。  
今年体育祭の内容を見直して、後半に防災訓練を実施した。(訓練時間2時間程度)
- ・ 訓練内容は、初期消火訓練、応急担架作成・搬送訓練、応急救護訓練

## ●活動成果(良かった点、工夫した点等)

- ・ 体育祭と併せて行うことで、参加者を確保できた。
- ・ 例年好評の“運だめし(くじ引き)”を訓練終了後にすることで、体育祭の後も多く参加者に残っていただけた。
- ・ 役員と一緒に、事前に他の組織の訓練を見学したことでイメージが持て、非常に参考になった。
- ・ 見学した際に「大変そう」と感じた炊出し訓練は、初めての訓練でもあったため、見送った。徐々にやっていければよいと考えている。
- ・ 「まず何かをやってみることが大切」と考え、消防署に相談に行き、訓練の指導をもらった。消防職員が丁寧に指導してくれたため、結果的にやってみて難しいことはなかった。

## ●課題と今後の取組

- ・ 避難誘導訓練や炊出し訓練など、訓練内容を少しずつ変えていきたい。
- ・ 「みんなで集まって一緒に何かをやること」が大切である。防災訓練やお祭りを通して、地域内の新旧世帯の融合を進めていきたい。



# 春・秋2回を継続して

～ 防災勉強会と実地訓練を実施 ～

団体名 : 成田山自治会自主防災会

結成 : 平成20年4月1日

世帯 : 44世帯



## ●取組内容

- ・ 地域の清掃日と防災訓練を併せて実施。地域の行事を1日にまとめることで、住民の負担が増えないように配慮している。
- ・ 室内と屋外に分け、年2回防災訓練を行っている。  
春（6月頃）：防災講演、図上訓練等（室内）  
秋（11月頃）：避難誘導訓練、初期消火訓練、救出・救護訓練、炊出し訓練等（屋外）

## ●活動成果（良かった点、工夫した点等）

- ・ 春に行う室内の訓練は勉強会として設定。危機管理室職員に来てもらっている。会長ではない第三者を講師とすることで、会員にも緊張感が生まれ、より効果的だと思う。
- ・ 室内の訓練では、集会所の狭い空間に集まることで、参加者に浸透しやすく、秋の実地訓練に向けて盛り上がりや統一感が持てる。
- ・ 一人でも多く参加してもらうため、回覧で「各世帯1名以上参加」と周知した。
- ・ 自主防災組織の役員は、自治会の役員とは別に固定化している。それぞれの担当者（班長）が自ら考え、訓練を主導するようになった。
- ・ 訓練実施後には反省会を行い、良い点や悪い点、災害時の対応等を話し合っている。
- ・ 会長1人だけでは大変。サポートする役員など協力者を巻き込んでいくことが重要。
- ・ 他の組織の防災訓練を見学に行った。その際も、会長だけでなく役員も一緒に行った。

## ●課題と今後の取組

- ・ 継続していくことが大切。繰り返し行っていく。
- ・ 自治会連合会の広報誌で各自主防災組織の訓練を紹介することで、地域全体を盛り上げていきたい。

# 安否確認！

～ 世帯構成員調査を実施 ～

団体名 : 三本自主防災会

結成 : 平成20年4月1日

世帯 : 169世帯



## ●取組内容

- ・ ごみゼロの日に併せて実施している。  
春：安否確認訓練、初期消火訓練、応急担架作成訓練  
秋：安否確認訓練、炊出し訓練
- ・ ごみゼロと併せて訓練を開催することで、訓練の参加者も確保できている。
- ・ 集合の際に班長から安否確認の報告を行う。報告後、清掃活動を開始し、その後に訓練を実施する。
- ・ 「開催のお知らせ」と一緒に「訓練実施要領」を回覧している。

## ●活動成果（良かった点、工夫した点等）

- ・ 春の訓練は消防署に指導を依頼した。丁寧に教えてもらえるし、普段、消火器を使ったことがない人も訓練用水消火器で実際に体験してみることは、よい経験となった。
- ・ 秋の炊出し訓練は、給食・給水班が担当となり実施。役割分担によりしっかりと行えた。
- ・ 毎年、災害に備え安否確認用の世帯構成員調査を行い、名簿化している。これにより高校生・中学生・小学生・幼児・安否確認が必要な人（日中に一人となってしまう人など）が世帯にいるかを把握している。
- ・ 実際にやってみると、意外とみんな積極的にやっていてよかった。会長だけでなく役員など周りのサポートも重要。
- ・ 市の補助金も有効に活用している。

## ●課題と今後の取組（予定）

- ・ 前任の会長（役員）から引継ぎがしっかりされていたため、よかった。
- ・ 炊出しは経験者がいないと最初は難しい。訓練を通して技術も引き継いでいきたい。
- ・ 市の備蓄食料（乾パン等）をもらって、啓発していきたい。



# 防災活動再開

～ 地域の実情に合った組織づくり ～

団体名 : 大栄自主防災会（武体・西川原・中郷の3自治会合同）

結成 : 平成16年8月26日 世帯 : 436世帯



## ●取組内容

- ・ 平成22年に、大麻生分団協力のもと初期消火訓練を実施した。その後、災害がないことや防災会の会長を含め役員任期が1年ということもあり、訓練は実施されなかった。また、訓練の必要性も感じなかった。
- ・ 東日本大震災をはじめ、平成25年9月16日の竜巻や平成26年2月14日の大雪などの災害を身近で経験し、防災意識の重要性を再認識した。
- ・ 平成25年11月に、活動再開の第一歩として、役員を対象とした防災講演を実施した。

## ●活動成果（良かった点、工夫した点等）

- ・ 防災講演会を実施したことにより、役員さん達の防災に対する前向きな姿勢が見えた。この防災に対する意識を徐々に、地域全体へ広めていきたい。

## ●課題と今後の取組（予定）

- ・ 現在、組織体制の見直しをかけている。より良いものにするため、地域の特性をしっかりと把握し、地域の実情に合った体制とすることが重要と考えている。
- ・ 何年間か継続して防災会の役員をやっていただける方を、ボランティアとして募集しようと考えている。やはり、役員はある程度固定しないと継続した活動が難しい。
- ・ 災害時等の緊急連絡網が整備されていないので、竜巻災害の際、連絡を取り合うのに苦慮した。今後、連絡網を整備する等、基本的なものを整備することにより、一人一人の防災意識の高まりにつなげていきたい。
- ・ 今後も継続して訓練を実施し、組織の活性化を図っていきたい。

# ミニ防災訓練

～ ゆうきゅう 熊 Q グルメ大会の中で防災訓練を ～

団体名 : 久下熊久自主防災会

結 成 : 平成22年1月28日

世 帯 : 496世帯



## ●取組内容

- ・ 地域の行事として、ゆうきゅう 熊 Q グルメ大会を開催した。各参加団体は、親和会、子ども会、老人会、自治会、自主防災会。
- ・ 熊Qグルメ大会の中で、『ミニ防災訓練』という形で訓練を実施した。
- ・ 訓練内容は、初期消火訓練、応急救護訓練、炊出し訓練、防災倉庫内の資器材展示。

## ●活動成果（良かった点、工夫した点等）

- ・ 熊Qグルメ大会と併せて行うことで、大勢の参加者を確保できた。また、行事と併せて行うことで、住民の負担とならないように配慮した。
- ・ 子ども会や老人会にも参加してもらったので、子どもからお年寄りまで、幅広い年代の方が参加した。
- ・ 訓練の最後に、防災に関するアンケートを実施することにより、一人一人の防災意識を高めることができたと思う。

## ●課題と今後の取組（予定）

- ・ 今後も、参加者の確保及び住民の負担の軽減を考慮して、他のイベントと併せて訓練を実施したい。
- ・ 防災倉庫に多種多様な資器材（発電機、チェンソー、放射能測定器等）を保有しているので、次回はこれらの資器材を活用して訓練を実施したい。

# 実践的な防災訓練を

～ 地域全体で支えあう ～

団体名 : 籠原自治会自主防災会

結成 : 平成16年3月31日

世帯 : 782世帯



## ●取組内容

- ・ 平成17年度から毎年、籠原地区の各自主防災組織（9組織）による合同防災訓練を実施している。参加者は600人を超える。
- ・ 訓練内容は、避難誘導訓練、初期消火訓練、応急救護訓練、給水・炊出し訓練、避難所仮設照明確保訓練、災害時要援護者の避難訓練など実際の災害を想定した実践的なものとなっている。

## ●活動成果（良かった点、工夫した点等）

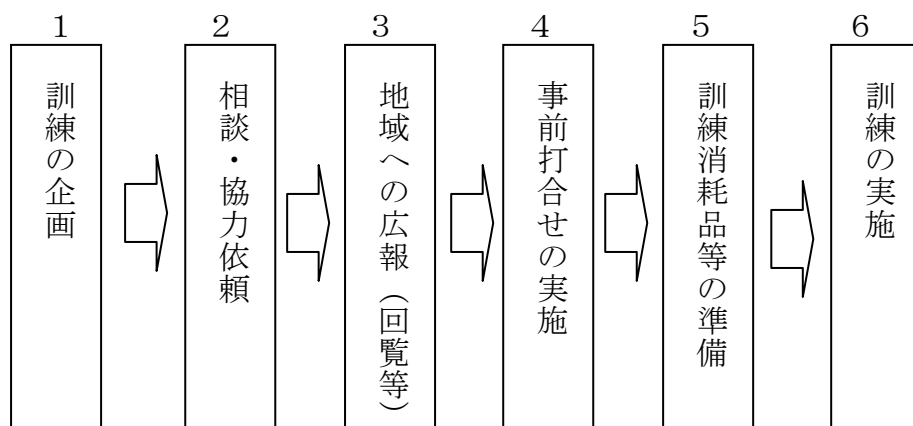
- ・ 地域の自主防災組織のみならず、公民館、社会福祉協議会、校区連絡会、青少年健全育成会、特別養護老人ホーム熊谷ホームなど地域全体で訓練に取り組むことにより、参加者の確保はもとより地域全体の防災力の向上、地域間の連携を図ることができた。
- ・ 青少年健全育成会に参加してもらうことにより、若年層を取り込むことができた。
- ・ 実際の災害を想定した訓練になっているため、一人一人が災害時の行動をイメージすることができる。
- ・ 災害時要援護者の避難訓練（災害時要援護者登録名簿による確認、車いすの使用方法等）を取り入れることにより、地域全体で要援護者を支えるという意識づくりができる。

## ●課題と今後の取組（予定）

- ・ 現在、地域の危険箇所や避難経路等を書き込んだ地域の防災マップを作成している。
- ・ 災害時要援護者の把握と避難所での対応など、要援護者をどのように支援していくかルールづくりをしていきたい。

### 3 訓練実施までの流れ

訓練実施までの流れは次のとおりです。「訓練をやってみよう！」と決まりましたら、消防署または危機管理室へご相談ください。



### 4 補助金申請の手続

『自主防災組織補助金申請の手引』をご覧ください。  
ご不明な点は、危機管理室までお問い合わせください。

### 5 相談・問合せ先

危機管理室では、自主防災組織の活動に関する相談に応じています。「結成しているが、どんな活動をしていけばよいのだろうか？」とお悩みの組織は、お気軽にご相談ください。

熊谷市市長公室危機管理室

住 所 熊谷市宮町二丁目47番地1

電 話 048-524-1111 内線333

F A X 048-525-9051

### 6 自主防災組織の活動予定

各地域での自主防災訓練の予定を、ホームページ上でお知らせしております。詳細をお知りになりたい場合は、危機管理室までお問い合わせください。

※熊谷市ホームページ（『自主防災組織の活動予定』のページ）：

<http://www.city.kumagaya.lg.jp/kakuka/shochoko/kikikanri/oshirase/jisyuboukatudou.html>



## 7 参考【市内の防災関係機関一覧】

分類	施設名	住所	電話番号
消 防	熊谷消防署	熊谷市原島 675-1	☎048-501-0120
	玉井分署	熊谷市新堀 319-2	☎048-531-0119
	江南分署	熊谷市千代 113-8	☎048-539-0119
	中央消防署	熊谷市末広 2-134	☎048-528-0119
	大里分署	熊谷市中曾根 646	☎0493-36-1119
	妻沼消防署	熊谷市妻沼 1720-1	☎048-567-0119
埼 玉 県	熊谷県土整備事務所	熊谷市新堀 500	☎048-533-8778
	北部地域振興センター	熊谷市末広 3-9-1	☎048-524-1110
警 察	熊谷警察署	熊谷市石原 441-4	☎048-526-0110
気 象	熊谷地方气象台	熊谷市桜町 1-6-10	☎048-521-5858

熊谷市自主防災組織の取組  
～活動事例集～

発行 平成26年3月  
編集 熊谷市 市長公室危機管理室  
電話 048-524-1111 内線 333  
FAX 048-525-9051